

【活動報告】

第18回CELサロン「高齢者の次世代支援 ～高齢者が参加し 地域で子育てするまちづくり～」を開催（担当：遠座研究員）

高齢化と少子化の問題を重ね合わせ、高齢者・子育て世代・子どもがWin-Winになる地域づくりについて考えました。

【日時】6月9日（金）16:00～17:40

【開催方法】リアル&Zoom

【参加者】82名（一般市民、自治体、地域団体関係者、Daigasグループ社員など）

【登壇者】（登壇順） 解題： エネルギー・文化研究所(CEL) 研究員 遠座俊明

講演：NPO法人孫育てニッポン理事長 棒田明子氏

座談会：こどもの居場所「ハーモニー」代表、大阪ガスネットワーク㈱ 向美怜氏

まちのつどい場「ここおる」、「こもたの」プロジェクト代表 榎井ひとみ氏

棒田 明子氏

NPO法人孫育て・ニッポン理事長

NPO法人ファザーリング・ジャパン理事

(社)産前産後ケア推進協会監事

防災士

「母親が一人で子育てを担うのではなく、家族、地域、社会で子どもを育てよう」をミッションに、全国にて子育て、孫育て、**他孫(たまご)育て**、防災の講演、プロジェクトを行う。

地域では、民生委員、産前産後ヘルパー



向 美怜氏

2007年大阪ガス入社後、ガス空調の技術開発・販売企画を経て、現在は営業職。

3人の育児との両立に奮闘中。

自身の経験から、**働く親・子に対するサポートが必要であると痛感**。

神戸市西区社会福祉協議会主催の「こどもの居場所づくりサポーター講座」の受講をきっかけに、2021年、神戸市西区でこどもの居場所「ハーモニー」を立ち上げた。



榎井ひとみ氏

神戸市生まれ、宝塚市在住。小学生3人の母。

大学時代、YMCAの野外活動ボランティアリーダーを経験したことがきっかけで、児童福祉の道へ。元児童館職員。

孤育ての経験から、地域で子どもを育む**“ごちゃ混ぜ育児”**を目指し、地域活動を開始。

まちのつどいばここおる運営委員長。

地域で子育て応援PJ「こもたの」事務局長。

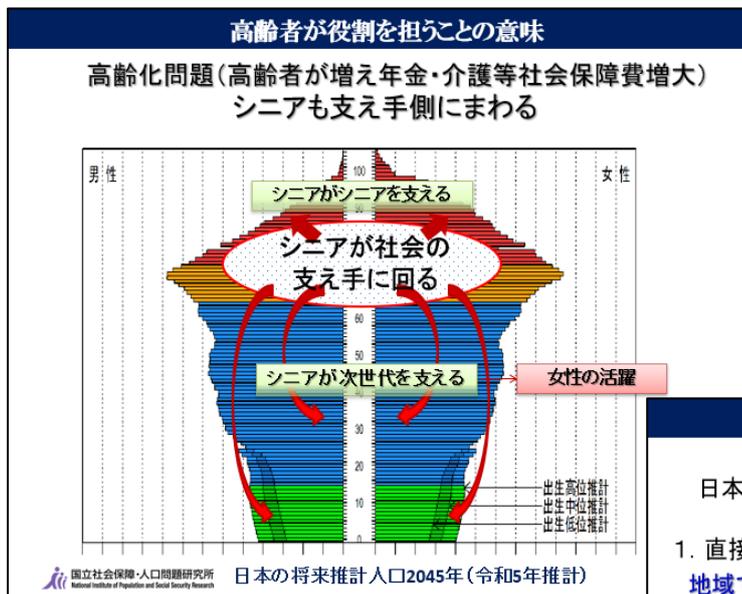


【概要】

◆ 解題「少子高齢化の今後と高齢者が子育て支援に参加する意味」(CEL 研究員 遠座俊明)

まず、本イベントの企画者である遠座研究員から企画の背景と目的について以下の説明がありました。

- ・仮説(導入)… 昨年の出生者は 77 万人となり、国の予測より 7 年も早く 80 万人を切った。少子化の原因としては、子育てにお金がかかることが大きい。若い層が将来に希望を持ってないため、結婚や子どもをあきらめているため、夫婦ともに働き稼げる…特に女性が社会で活躍しやすい社会が求められている。そこにはシニアの活動の場、活躍する機会が広がっているのではないか？
- ・合計特殊出生率(2022年)1.26の意味…男女2人で1.26=子供世代の人口が親世代の63%に減る。
- ・人口ピラミッドの逆三角形化がますます進み、支え手側の人口が減るため、既に政府の政策経費の過半を占めるに至っている社会保障費用はますます膨らみ、現在のままでは制度が立ち行かなくなる。
- ・企業の健保組合の 8 割が赤字で、保険料収入の半分が高齢者医療費等の納付金として吸い上げられている。更にこの健保組合の保険料が異次元の少子化対策の財源として視野に入れられていて、高齢者の健康維持や少子化対策は、企業とその従業員にとっても直接的な重大事となっている。
- ・その対策としては、高齢者の生活不活発化・介護予防(健康維持)のためには役割を担うことが重要であるが、歴史に学んでみると、昔の日本社会も成人人口に占める高齢者比率がそこそこあったが、それは高齢者が共働きの親に代って“子育てという役割を担っていた”ことが理由の一つとして挙げられる。
- ・現代の子どもの発達上の課題として、核家族化が進んだことで子どもが特定の少数の人間としか接せずに育つため社会性が乏しくなっていることが挙げられる。子どもが高齢者と交流することは、子どもが社会性を培い、かつその天性の能力を発揮し、発達する上で非常に良い効果があると発達心理学者は指摘している。



高齢者が役割を担うことの意味

日本の最重要課題のひとつ 少子化問題への貢献

1. 直接的に子育て支援に関わる
地域で子育て世代が孤立しないよう支援することで、安心して子育てができる地域づくりの一翼を担う
2. 子育て世代がより働きやすくなり、その仕事・収入に貢献できる
シニア世代が子育て支援をすることで、現役世代…特に女性が社会で活躍しやすくなり、間接的に経済的支援を行うことができる。
3. 社会保障財源をより次世代に振り向けることができる
シニアが活動する…生活不活発化を予防し、元気・健康に生きることで、高齢者医療・介護費用の増加を抑える

◆ 講演「地域でたまご(他孫)育て」(NPO 孫育てニッポン理事長 棒田明子氏)

メインゲストの棒田明子氏から以下のような講演がありました。

- ・子育ては地域で行うべきで、子どもと年寄を引き離すべきではないことが世界のこたわぎなどにある。
- ・「孤立」は、子育てママ、高齢者、小学生にも共通する問題。子育てママと子どもが地域とのつながりが希薄になった原因は、地域の人々と声を交わすことが激減したことが大きいですが、これは車(幼稚園バス含む)、自転車での移動が主になり、乳幼児期に歩かなくなったことによる。

ひとりの子どもを育てるには
村中みんなの力が必要

アフリカのことわざ

お年寄りと子どもをはなしてはいけない
彼らを引き離すことは、
過去と未来を断つことと同じだ

アメリカンインディアの言葉

誰のことでしょう？

- ・話相手がない
- ・食事はひとり
- ・外出しない
- ・頼れる人がいない

誰のことでしょう？



地域のつながりが希薄になった原因

乳幼児期に歩かない

移動手段: **自転車、車、園バス**

**地域の人と出会う
確率減る**



地域とのつながりが希薄になった背景

- ◎朝、家の周りを掃除する
- ◎水まき
- ◎庭、縁側、道路での立ち話
- ◎道路での子どもの遊び
- ◎たき火の禁止
- ◎ゴミ置き場 24時間ゴミ出しOK
- ◎女性運転者の増加
- ◎幼稚園バスの普及

一人目の育児の辛い経験が2人目の出産を躊躇させ一人っ子が多くなっている。一人っ子同士が結婚すると、その子どもには、従兄妹がいない、叔父さん叔母さんがいないことになり、様々な影響がでてくる。

その影響は？

- ・複数の家族のスタイルを見ることができない
- ・いろいろな職業を知らない
- ・冠婚葬祭に出席する機会少ない
- ・成長を喜んでくれる人が少ない
- ・お祝いしてくれる人が少ない
- ・ほめてくれる人の減少
- ・相談相手が少ない



妊婦・産後ママ・子育てママの現状

- ◎出産2カ月前まで仕事
- ◎近所に知り合いなし(必要ない)
- ◎祖父母のヘルプない人も増加
 - ・高齢出産
 - ・祖父母 家族の介護
 - ・仕事をしている +コロナ
- ◎男性産休、育休とれない人も多い

- 産後うつ発症約3割(うつの手前8割)
- 虐待、離婚

孤立予防のために、歴史に学び、多くの人の子育てに関わる仕組みづくりを考える・・・

江戸時代の子育てとは？

仮親

子どものセーフティネット

成長の節目節目の通過儀礼を大切に、地域全体で子どもを見守る体制。一人の子どもに、義理の親として何人も大人が関わり地域社会の「絆」を深め、生涯にわたって子どもを見守る。

帯親、取り上げ親、抱き親、名付け親、行き会い親、拾い親、仲人

“たそだて”をしよう
現代の子育て…個育て、孤育てといわれている

“こそだて”から

+こそだて
たまご(他孫)育て

多くの人に関わり、他人の子ども気にかける

事例:ピンチの人を予防し、出会いで笑顔にする 赤ちゃん食堂への取り組み

事例(挑戦) ピンチの人を予防する

キーワード

話相手×食事×外出先

子どもの成長・発達・教育

産後1カ月健診後のはじめてのお出かけの場

「赤ちゃん食堂」



【赤ちゃん食堂の効果】

ほっと一息つける安らぎの場所であるだけでなく、様々な効果がある。

《子育て世代にとって》

- ・産後うつ、幼児虐待の予防
- ・日常的な地域とのつながり、相談先(者)
- ・赤ちゃん、子どもの成長・発達

《シニア世代にとって》

- ・社会とのつながり、一つの役に立つ(有用感)
- ・コミュニケーション能力の発揮や新しいことへのチャレンジ
- ・認知症の予防

《自治体にとって》

- ・要支援者の把握(高齢者の要支援者の把握は行われつつあるが、妊婦、乳幼児課程の把握ができていない)
- ・潜在の専門職の発掘(医療、保育、心理等)
- ・医療費の削減

【市民農園】畑はみんな大好き。様々な人たちが、土いじり、料理など みんなが好きなことだけを行いながら交流する。昼間からお酒も飲んでるが、笑うことで元気になっている。

できないでなく、できることやる！

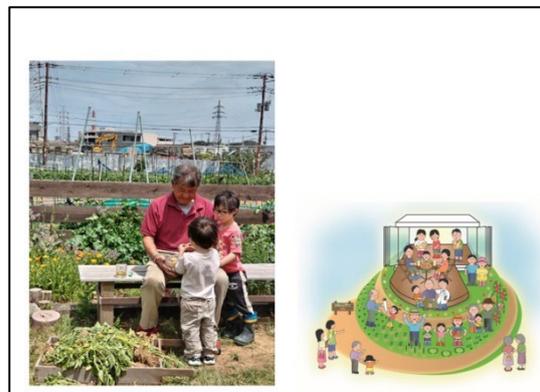
3密避け母親を支える

オンラインと外で！

まちの相棒 ぼうだ+助産師

ちょっとだけ 一人になりたい 大人と話したい 子どもをみてほしい

サポートが必要な人



◆ 座談会（棒田、向、榎井、遠座、+会場）

まず、子育てしながら地域で子育て支援活動をしている2人の女性から経験談などの話をさせていただきました。

■ こどもの居場所「ハーモニー」代表 向美怜氏

自宅のある大規模マンションの一角で「ハーモニー」を運営している。子育てママだけでなく、チラシを見たという高齢者が手伝いに来たり、居場所が必要な中学生が運営を担ってくれている。

営業の仕事をしなが、中1、小5、小2の3人の子育てをしているが、子どもが幼いときは、「自分でもしなくちゃいけない病」に取りつかれていて大変だった。しかし、育児を他人に手伝ってもらった経験をしてきて、地域で見守りや子育てを手伝ってもらう場を作るときと行動することにした。

ハーモニーの紹介

- ・ 月1回、地域のこどもに食事提供と学習支援、安全で快適な遊び場として開催
- ・ 地域の中学生にボランティアをお願い（運営手伝い、遊び相手、勉強を教える）
- ・ マンションの掲示板にチラシ掲載で各回約20名のこどもが参加
- ・ 神戸市西区社会福祉協議会の助成金を活用して運営
- ・ 青少年育成協議会、民生委員、地域委員会、小中学校等と連携



2/18 みんなであそぼう こどもの居場所「ハーモニー」

こどもが「もっとつくづく感じる場所」「のびのびとあそぶ場所」「安心して話せる場所」

作らないうちで、こどもの居場所がスタートしました。みんなで力を合わせて、子育ての力を、ぐんぐん伸ばして楽しく遊びましょう！

日 時：2023年2月18日（土）11時～16時

場 所：東区一丁目 市民センター

どんな課題があるか？

【こどもを取り巻く状況】

- こどもの留守番、特に長期休みが問題
- 中学生の遊び場や落ち着ける居場所が少ない
- 核家族化、高齢者と交流する機会が少ない
- 広場で遊ぶと、こどもの声がうるさいと高齢者からクレームが来ることも・・・
- ネット、ゲーム、スマホ、SNS等のトラブル

安全に過ごせる居場所の提供

ボランティアでかかわる
自分の住む地域に関心を持つ

世代間の相互理解が必要

スマホは使いこなせるがマナー
の理解が不十分

【高齢者を取り巻く状況】

- 高齢者の外出機会、近所の人と交流するきっかけがない
- 独居高齢者の安全の確保（健康、防災）
- スマホを使いこなせない

外に出るきっかけづくり

顔見知りを増やす。〇〇さん元気かな？

こどもと一緒にスマホを楽しく使えないか？

■ まちのつどい場「ここおる」、「こもたの」プロジェクト代表 榎井ひとみ氏

現在、小学生3人の子育て中。夫が転勤族だったので、転居先での孤育てを経験した。知らない町では近所に知り合いを作るのが難しかった。3人目が出来たときに一人で子育てするのをあきらめ、宝塚市お互いさまのまちづくり縁卓会議に参加し、同じような子育てママ達に出会った。

居場所づくりイベントや多世代交流地域食堂の運営を経て「こもたの」プロジェクトに取り組んでいる。

地域で育てることが難しい現状

- ✦ 核家族化
- ✦ 少子化
- ✦ 地域でのつながりの希薄化
- ✦ 孤立した子育て

合言葉は

こ そだてを も っと た の しく
↳ 略して **こもたの**

たのしむ

こもたのカーニバル

ステージ、マルシェ、ワークショップ
おやこで楽しめる場
&
地域のヒト・モノ・コト
とつながる場



すごす

「まちのつどいば ここおる」

平日いつでも遊べる
キッズスペースとコミュニティカフェ
※オムツ替え、授乳スペースあり



【座談会の抜粋】

- (遠座)今のママたちはオンオペ意識が強く、孤立しているが、それを乗り越えるためにはどうすればよいのか？
- (棒田)「大変」を解決する方法を考えるより、楽しい場を作った方が結果として孤立は無くなると思う。
- (向)なぜ母親は“何でもしなくっちゃ病”になるのか？ 最初の子育ての時は何でも自分でするのが当然と思い、疑うことすらしなかった。子どもを預けるのにも「そんな小さな子どもを保育園に預けて、もうちょっと一緒にいてあげた方がいいんじゃないの」とか言われ、休みをとる際にも周りに迷惑かけているという罪悪感をもっていた。
- (棒田)私たちは「他人に頼らない、自分一人で解決する＝自立」という教育を受けてきた。自分で“出来ない”と認めることは、自分の弱さをさらけ出すようでハードルがすごく高い。
- (榊井)人は他者と支え合って生きているのに、今の教育は“自立”を強調し過ぎると思う。苦手なことを自分で5時間かけてやるより、得意な人に1時間でやってもらった方が合理的。仕事でも苦手なことはチームを組んでお互いに補っていく方が成果が上がる。
- (棒田)初めての子育ては、自動車教習所にも通っていない人が横に教官も載せず、チャイルドシートもつけずにいきなり子どもを横に載せ、道路を高速で走るようなもの。日本には地域に子育てをサポートする専門職がちゃんと配置されているのに、その存在を知らない、頼っていいと教えられていない。
- できないことは無理せず人に頼っていいんだと、これまでの教育を変えていく必要があるが、この変化は今の世代だけでは無理で次の世代までかかると思う。
- (遠座)特に男性は自分の弱みをさらけ出すことが苦手。
- (榊井)発想を変えて、皆さん好きなことをやる、役に立つことをし合う、とすれば強い集団ができる。
- (棒田)頼るってことは、自分よりスキルの高い人、良くできる人に任せることだ。また、得意でなくても好きなことをお互い出しあっていったら良い。先ほど事例で紹介した“畑づくり”はお茶の好きな人がいたりで、まさにいろんな“好きな人”が集まってやっている。できること、好きなことでつながることは素敵なこと。
- (会場の男性)自分は定年退職して家にいてもやることがないので、知人のブドウ園を手伝っている。しかし、住んでいる奈良には神社仏閣はあるが、定年後何をやったらいいか周りに情報が無いように思う。地域でも子どもを見かけない。子どもはどこに居るのだろうか？
- (榊井)上の子が小学校に通い始めたとき、地域ごとに登校班というものがあった。初めて自地区の登校班を見たとき20人の子供がずらっと並んでいて、こんなに子どもが居るのか！とびっくりした。今は家々が閉じているため地域の子どもが見えなくなっている。
- (会場の男性 A)自分は塾ではなく、地域に(シニアが活躍できる)寺子屋みたいなのがあればいいと思う。しかし自分一人では維持が難しいので、継続できる仕組みやつなぎ役が必要。
- (棒田)地域のつなぎ役として社会福祉協議会がある。また民生・児童員などもある。そこで聞いてみるとよい。そこで同じような気持ちの人がいないか聞いてみてほしい。
- (向)私も子どもの居場所づくり講習会に参加して、初めて社会福祉協議会の存在を知った。そして同じような気持ちをもった人たちと出会えた。
- (会場の男性 B)地域の高齢者が子育てに参加するための方法は？
- (棒田)直接子育て支援に参加されるケースは少ない。奥さんから背中を押される、趣味から入るとかが多い。
- (会場の男性 C)男性はまじめなのですぐ仕事化してしまう。具体的に作業を指示する必要もあると思う。
- (棒田)直接関わることから始めるのではなく保育園のペンキ塗りなどの小シゴトから始めるのが良いのでは。人により違うので、選択できること、参加のスタンス(距離感)をうまくとれるようにすること、ふらっと行けるようにすることなどが大事。

以上